



「おんなのこのまゆ」

「キタ・セクスアリス」

R-18
Adult Only

3
cocoa
holic
by Yuizaki Kozuya,
since 2010



「おんなのこのまゆ」

「キタ・セクスアリス」



cocoa
holic
by Yuizaki Kozuya,
since 2010

——Joshua Burton Hamiltonとは何なのかって？
いわば我々の間に遅れてやってきた思春期、子どもじみた反抗の象徴さ。
誰が誰と仲がいいから、師弟だから、論文を読むとか、読まないとか。
あの時若かった私たちには、そういうのがウンザリだったんだ。
つまり"彼"は、あの有名なNicolas Bourbakiの良き理解者にして友人ということだ。
私も実際、過去に数回ほどJoshuaとしていささか風刺的な論文を書いたものさ。
しかし、それにしてもまさか"彼"の存在が、あの未曾有の規模の大戦争をわずか3年
も経ずに終息させるきっかけになるとはね。
ヒトラー、スターリン、ルーズベルト、チャーチル、そしてヒロヒト。
数百万の命を手足のように使えたはずの彼ら全員は、完膚なきまでに敗戦したんだ。
——よりもよって、〈科学者という概念〉という実在すらしらないものを相手にね。
実に愉快だ。……だってそうだろう？
WWIIは結局のところ、"科学の勝利"という結末を見た。
だとすれば、我々科学者は——世界中のどの国に所属するそれであろうと——
間違いなく戦争に勝利した側なのだから。

Prof. Reynold Carrの証言
1961年 ニュージャージー州プリンストン、友人らを招いた茶会にて

COCOA HOLIC Presents,
"G.E.D" Episode-1
Pt.3 "Onnanoko no Mayu -vita sexualis-"
in Jun, 1936



【前回までのあらすじ】

時に昭和十年。両親の不幸をきっかけに、
留学先の英国より横須賀の実家へと出戻った青年・和久井耀一郎は、
唯一屋敷に残された異人の少女・繭と生活を共にすることとなった。



◆和久井耀一郎

英国帰りの、それでも向こうではそこそこ名の通った若手物理学者。
自分のことを『偏屈でアナキストじみた人間』と主張してはいるが、
実際のところは場の空気を察したりなどを面倒くさがっているだけの、
そこらに転がっているような単なるひねくれ気味のヘタレ人間である。



◆繭

耀一郎専属の使用人。

血筋としては両親とも異人であるが、物心つく前には既に孤児と
なっていたため、日本語以外を理解することはできない。
飯田橋の借家は横須賀の屋敷と違って狭く、すぐに掃除も終わって
しまうため、ここ最近はできた余暇を読書にあてがうことにしている。

この作品はフィクションです。
登場人物・地名・団体名・歴史・事件・世界観・メタ構造その他一切は
架空のものであり、実在のものとは関係ありません。



1936, JUNE
IIDABASHI, TOKYO

I HAVE
TO TELL
EMBARR-
ASSINGLY

YOUICHIRO-
SAMA TOOK
MAYU AND
WE LEFT
FOR TOKYO
AT ONCE.

HAVING
RECEIVED
AN
INVITATION
FROM A
FAMOUS
SCHOLAR,

IT HAS BEEN
A YEAR SINCE
WE'VE BEEN
LIVING IN
WAKUI
RESIDENCE
UNDER
APPREN-
TICESHIP.

THAT
THERE
HAS
BEEN
SOME
TROUBLE
...

MAYU
CAN'T HELP
BUT
PLEASURE
HERSELF
EVERY
NIGHT.

WHEN
THAT
HAPPENS,
FOR SOME
REASON

WHILE
YOUICHIRO-
SAMA IS
OCCUPIED
WITH HIS
STUDIES,
THE HOUSE
IS LEFT
EMPTY FOR
A FEW DAYS
STRAIGHT.

CUMMI-
...

MH YAA
...

Ah
Ah...
Ah

WHEN I
FINISH
CLEANING
QUICKLY
OR GET
BORED
FROM
READING,
I'M AT THE
END OF MY
ROPE.

SO,
WHEN THAT
HAPPENS,
I USUALLY
GET LOOSE.

It's
tingling
inside...

Haa
So
So
good.

WHEN
I'M
OUT OF
BREATH,

THE
PELASURE
IS
IMMENSE.

AH...
AGAIN...

I REMEMBER
HOW MUCH
I WAS
CONTINUOUSLY
CUMMING
LATELY.

THE GAPS
IN MY HEAD
ARE FILLED
WITH A
PLEASANT
FEELING.

MH...!

...MH

EHEHE...
ISN'T
THIS
STRANGE?



WHEN I
THINK
ABOUT
THIS,
MY CHEST
TIGHTENS
IN REGRET.

PERHAPS
MAYU HAS
FALLEN TO
DEGENERACY
TOO FAST.

WHAT A
TROUBLE-
SOME
SITUA-
TION.



NO!
I DIDN'T
HEAR HIM
RETURN!

WHA--
YOUICHIRO-
SAMA!?

I GOTTA
PUT ON
THE CLOTHES
NOW...

OR--!?

A e e e h!?



あせ

あせ

UUUUH...
IT'S HARD
TO TALK
IN THIS
STATE....!

That's
because

Just when
I thought
about cleaning
up, a miracle
happened..!

THERE'S
A LOT
OF NOISE
HERE...

...I
SEE.

なみ

なみ

You look
half-
asleep...!

I'M
SAVED...

I FINISHED
WITH MY
RESEARCH.
ARE YOU
GOING INTO
CITY?

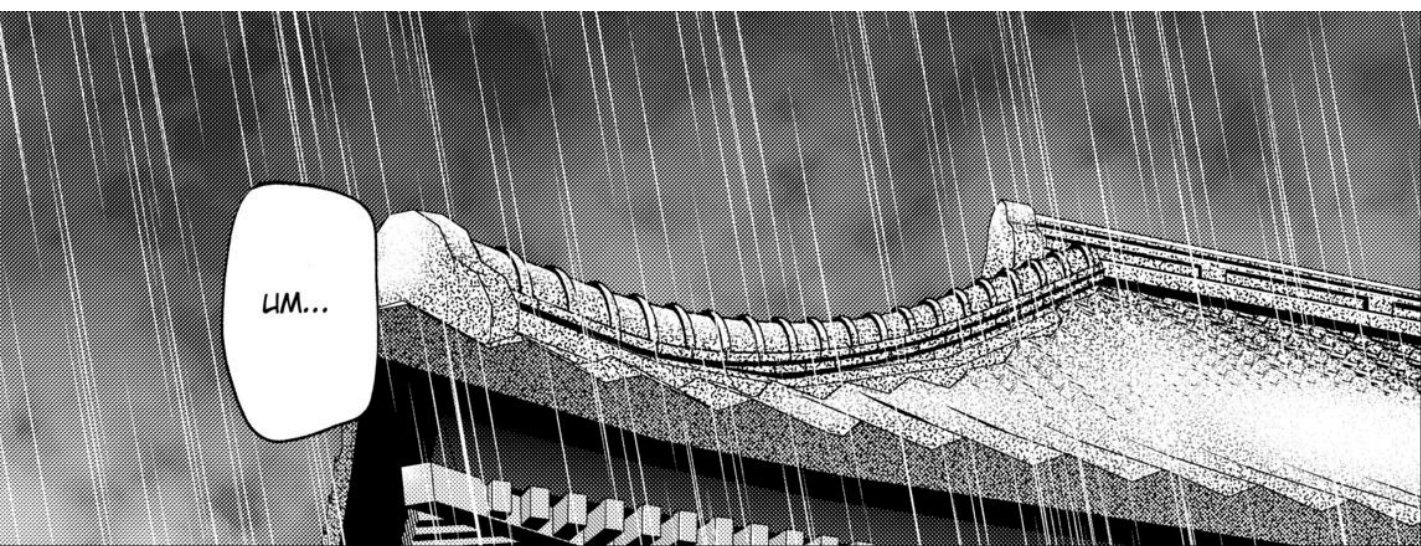
...MH?
AAH...
I'M
BACK.

WHA?

OR SOMETHING
THE SIZE
OF MAYU,
HUH?

SOMETHING
SMALL
LIKE FROM
THE QUANTUM
WORLD,
APPEARED.

...



UM...



YOUICHIRO-SAMA HAS BEEN WORKING IN TOKYO FOR A WHILE.

AAH... I VENTED OUT MY ANGER THERE...



...THE RAIN CAME IN SUDDENLY, HUH?

THAT'S RAINY SEASON FOR YOU!

JUST WHEN I DECIDED TO TAKE A STROLL AROUND TOKYO, THIS HAPPENS, AS IF IT'S SOMEONE'S LAUGHING!



...EVEN IF I DON'T GET WHAT HE'S SAYING.

THE PARTICLE ACCELERATOR AND AUTOMATON VACUUM TUBE ARE CLEARLY HOTTER!

ALSO, ALL THESE NEW-FANGLED AIRPLANES AND WARSHIPS. THEY'RE NOT ROMANTIC! AT ALL!

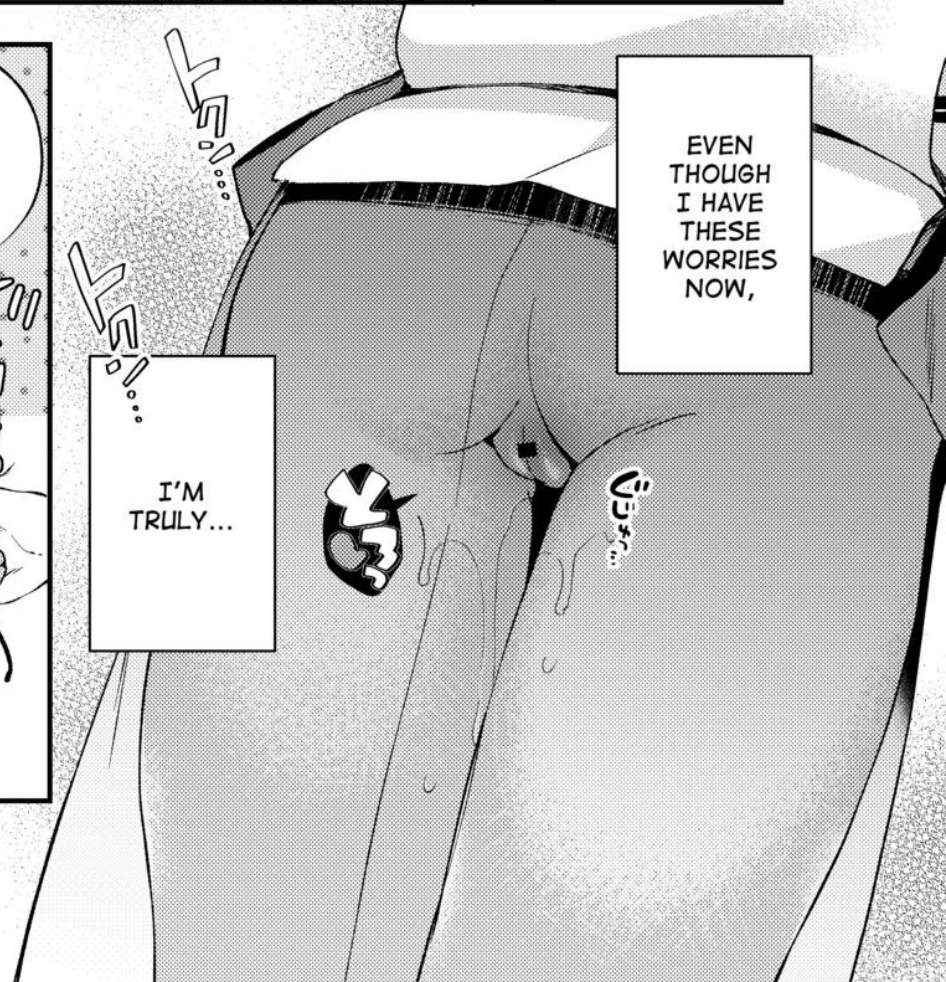


HE DEDICATED TONIGHT TO GOING OUT WITH MAYU.

I THOUGHT HE WAS EXHAUSTED, BUT HE SEEMS HAPPY.

MY RESEARCH IS MOVING AT A SNAIL'S PACE... THE NERVE OF THEM.

IT'S BECAUSE OF THE COUNTRY THAT SPENDS MONEY ON THE ARMY





WHEN HE'S SO CLOSE, I CAN SMELL IT...!



HIM
BEING
CLOSE
WAS
ENOUGH.

HIS
TOUCH
ALONE
WAS
ENOUGH.

...HEY.

I'M...
ALWAYS
LIKE
THIS.

MY
STOMACH
IS SORE.

HIS
SWEETNESS
IS FILLING UP
MY THROAT.

YOU-
ICHIRO-
SAMA.

I CAN
DO THIS
DISGRACEFUL
THING SO
NONCHA-
LANTLY.

WOULD
YOU
KINDLY...?



...I'M SURE THAT NOBODY WILL COME HERE.

THE RAIN IS HEAVY.

AND SOMEONE MIGHT COME--

...IT'S AFTER-NOON STILL!



WITHOUT A SHRED OF EMBARRASSMENT...

YOUICHIRO-SAMA IS LOOKING AT MAYU

AAH, I REALLY



DON'T UNDERSTAND HOW IT CAME TO THIS...



MAKES
ME FEEL
SO MUCH
PLEASURE.

WHEN
I FEEL
BURNING
HOT,
HIS
TOUCH



I WANT
HIM TO
CLING
TO ME.

ALL OF
MY BODY
STARTS TO
TREMBLE IN
EXCITEMENT.



I WANT
TO BE
SCRAPPED
AND ROUGHED
UP MORE

TO
RETURN
A FAVOR.

I WANT
TO STAND
ON
PURPOSE

TO MOAN
AND
MAKE
SLOPPY
SOUNDS.

Fuwaa...

That's so
quite...
deep



HE WAS
AS INTEL-
LIGENT AS
YUICHIRO-
SAMA.

IT WAS
ABOUT A MAN
WHO COULD
NOT FEEL
A CHARM OF
A PILLOW.

SOME
TIME
AGO
I'VE
READ A
FAMOUS
STORY.

OR MAYBE
YUICHIRO-SAMA
WAS AS
INTELLIGENT
AS HE WAS.

IT MADE
MAYU FEEL
REALLY,
REALLY
JEALOUS!









HE
SEES
THE
WHOLE
ME.

...THE
NOW-FOOLISH
MAYU FINALLY
UNDERSTANDS.

IT'S...
HOT...



YOU WANTED
TO DO THIS
THAT BADLY?

Ah...♡
Well...

THE BOTTOM
OF MY SLOVEN,
WORRISOME
HEART.

IT FELT
TIGHTER
AND WARMER
THAN
BEFORE...

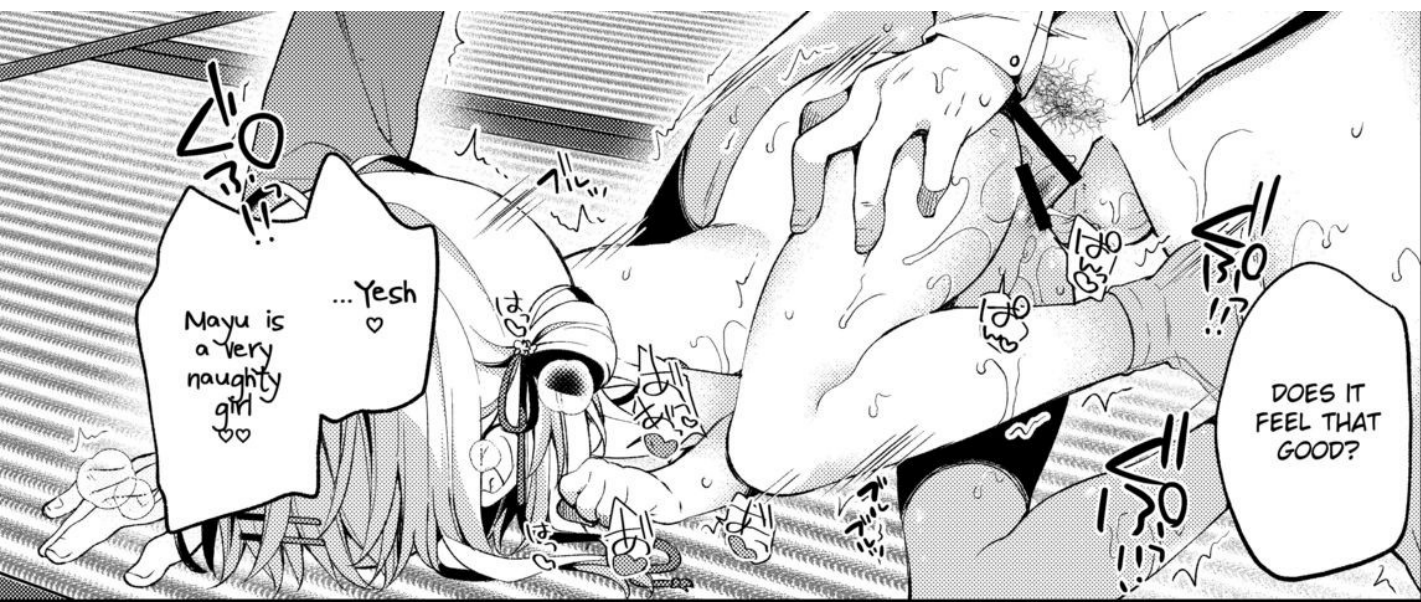
MY
CHEST
THAT I
LACK
CONFIDENCE
IN.

MY
EMBAR-
RASSING
HOLE THAT
PEOPLE
WANT.



HE SEES
MY DEEPEST
PARTS.

...MAYU
WAS
VERY
LONELY♡
WHEN
STAYING
AT HOME
♡





I feel
all
fluttery
♡

Inside
and
outside
♡

I'm
breaking
♡

I can't
go back
to how
I was
before...
♡



I'll
definitely
♡

Be
broken
for good
♡♡

If I lose
my
restraint
now
♡♡

...I'D
RATHER
SEE MORE
OF THAT.

Y...♡
You're
evil...



DON'T
WORRY.

EVEN IF
YOU FAINT,
I'LL TAKE
CARE OF
YOU...

AAH,
NOW
I UNDER-
STAND.

THE
WHOLE
OF
MAYU

WANTS
TO FLY
UP.

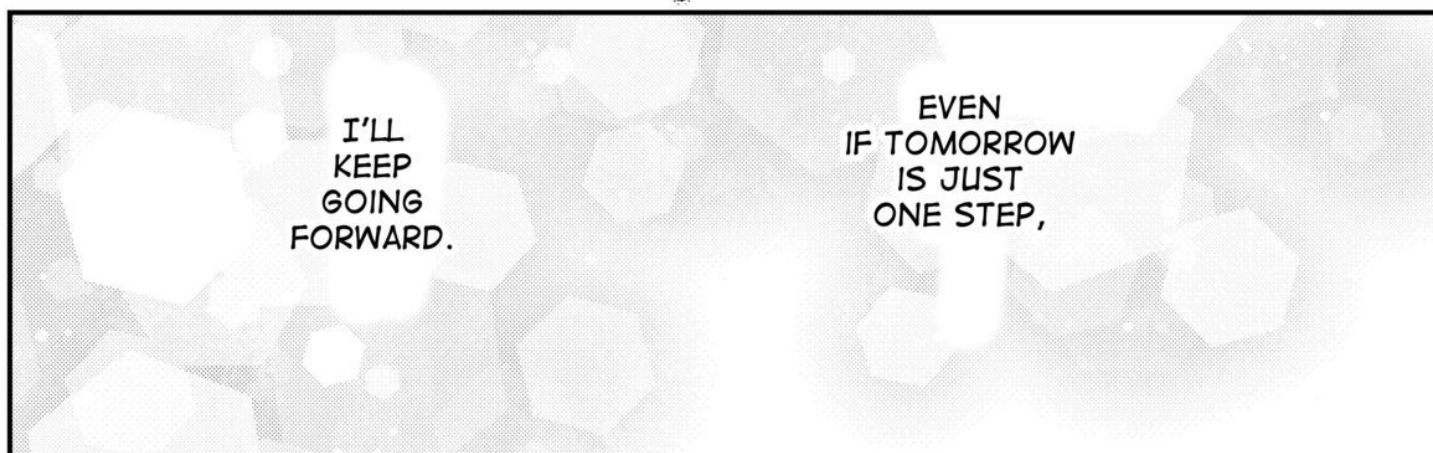
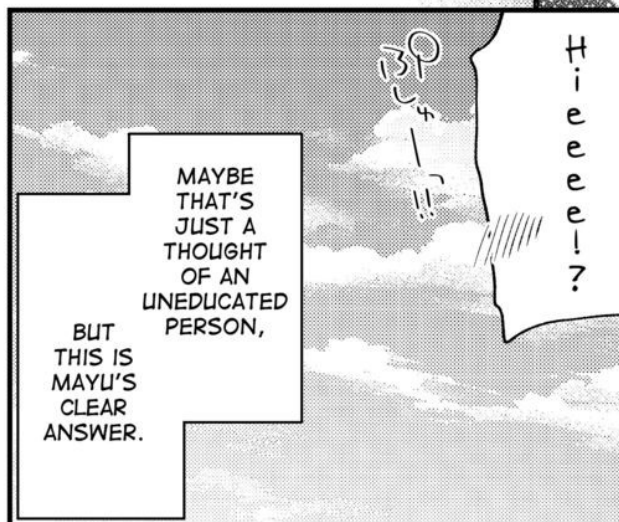
...OR
MAYBE,
THIS IS
ACTUALLY...



THIS IS
WHAT
"BEING
LOVED"
FEELS
LIKE!







こんにちは、ユイザキです。

のろのろ発行ですが、なんとか繭3冊目を出す事が出来ました。
初めての繭視点でしたが、いかがでしたでしょうか。
「キタ・セクスアリス」は実際にある作品で、青空文庫で読めるので
興味のある方は是非…！

読む専門の方には分からない話かもしれませんが、今回から
グレスケ→トーン化で作業してみました。
いつもと変わらない感じになってるといいのですが…。

劇中での描写に関する歴史的補講

編・伊丹有桂

今回も、劇中に描かれる時代特有の要素、漫画のみでは伝わり辛いであろう点に關しての解説を、時代背景補足として行った。

例によって読まれる時代を考慮し、現代仮名遣いにて表記した為、読む際には十分に注意されたし。

◆七頁

「蘭たちが飯田橋に移った経緯を述懐する場面」

劇中の時代、昭和十一年といえはまず「二・二六事件」が起こった年であり、満州事変以降着々と強まっていたこの国のファッショ的姿勢がなおも先鋭化し、いよいよ来るべき大戦争に向けて準備を始めたあたりだ。高校とかの歴史のテストくらいならば、概ねそんな感じで書いておけば部分点くらいはもらえるだろう。

血色微妙な目ノ本男児が軍帽かぶって御国の為は何本桜に紛れたり紛れなかったり浮世のまにまに断頭台から見下ろしちゃってるような世界観。まあ大体そんなどっから見てもステレオタイプを想定してくればわかるかやすいかもしれない。大体あの辺の時代だ。

さて、今日はそんな皇国の為の熱心に欲しがりませんしている男子諸君は一旦横に置いておいて。編者が注目していきたいのは彼ら主役たちの裏側、つまりどの時代においても慢性的に脇役として生きることが運命づけられている我々サイドの人間、現代アメリカンカーニスト制度でいうところのギーク階級のガリ勉陰キャたちはどうしていたのかを考察していきたい。

文学方面ではたとえば、ちょうど太宰治なんかは薬物中毒でベロベロになっていたあたりで、そっちも非常に面白い時代ではあるのだが、そんなことができるのも当時のこの国には存外まだ自由が残っていたからであって、他方では、理系の連中についても然りと言える。

政府や民間からの補助金・寄付金をもとにして、大正六年に「理化学研究所」が創設された。その目的は自国民研究者による科学技術発展を通じた国家への寄与。現在でも「理研」の略称を用いれば読者にもあぁ、と思いがたるところがあるかもしれない。そう、あの理研だ。

世界初のビタミンAの分離抽出の成功、ビタミン剤の製品化を通して劇中の時代にはすでに一大科学コンツェルンとしてその立場を確立していた理化学研究所。潤沢な研究費が約束される上、主任研究員に大幅な予算権限を握らせる制度までもが採用されていたため、そこには「科学者の楽園」と呼ばれるまでに、自由闊達に最新の研究が可能な風土が存在していたのである。

……ところでここ最近金欠気味なわが国は、どうやら成功の約束された研究にしか予算を割かない方針であるそうだが、研究が成功するか失敗するかを見分けるにはどうすればいいのだろうか？ 絶対に成功する研究を提案できるのは、詐欺師しかないように思えるのだが。

◆十一頁

「耀一郎が空気を読まぬ通り雨に逆上する場面」

高度に自動化が進んだ世界では、発達したAI（人工知能）が単純労働者にとって代わることで失業率は上がり社会は荒廃する！——などとネット各所にあまたいっしやる半可通たちによって頻繁に、そして安易に語られがちないわゆる「悲観的シンギュラリティ」論であるが、果たして実際にそんな未来が到来した際、本当に彼らの言うように人類社会は動くのだろうか。ここに關してははっきりと、杞憂に過ぎないと編者は感じている。

さて歴史を紐解けば、今のAIのような例——技術の発達の結果として人の旧来の仕事を奪うことになった例などは枚挙にいとまがない。マスケット銃の登場と浸透は戦争における寡兵化を生み、地元農民の季節労働としての従軍機会を奪っていたし、蒸気機関時代の到来は、すなわち家内制手工業で保っていた職人たちの食い扶持が資本家によって根こそぎ叩き潰されることを意味していた。

そして劇中の時代においては、丁度無声の活動写真から有声映画へと映像娯楽メディアが急速にパラダイム・シフトを起こし、それによって需要がほぼ消失してしまった職業——映画のスクリーンの下に一席を構え、上映中に進行に合わせて俳優の意識アテレコや映画に關する

うんちくをジャマにならない程度に添えたりする「活動弁士」もまた、それらのうちのひとつであろう。

では彼らは自分の生業が技術により潰されたあと、どうしたのか。ある者は舞台を降りず河岸だけ替えて漫談師を始めた。ある者は百人と聴衆を集め、紙芝居を読みあげたり、包丁やらの実演販売なんぞをしてみた。口のうまさを生かして冠婚葬祭の司会を始めた者がいた。その時庶民に丁度浸透しつつあったラジオ放送のナレーターになった者もいたと聞く。

結局のところ、彼らの居場所はどこにでもある。

なんのことはない。規模の大小の差こそあれ、技術的パラダイム・シフトに伴う痛みなどというものは人類史では無数に経験してきた、ごくありふれた現象でしかない。いくらAIが発達しようとも、それで労働者の需要が少なくなるように表面上は思えようが、別の場所での新たな需要が生まれる。人の営みなんてものは、その程度のいい加減なものである。

では、ここで話を本筋の、「高度なAIの時代が到来したらどうなるか」に戻そう。ロボットの稼働には、当然だが維持費がかかる。AIの運用には、頻繁なメンテナンスやアップデイトを要する。自動運転中の機械はあなたが思っているより頻繁に異常を察知し、他でもない人間の処置を待つためにその場で停止する。どれだけ高度な機械がそこにあつたとしても、それが機械である以上は、設備保守に携わる人員は絶対に必要となるのだ。

ならばそれらの保守までもすべて機械にやらせてみよう、となる。そうすると、今度はそちらのメンテナンス用の機械に対して、より頻繁なメンテナンスと処置が必要になり、結局手間は変わらなかった。「絶対に壊れない機械」という無茶な前提にしない限りは、どんな高度な機械化をこの人類社会が遂げようとしたところで、マンパワーへの依存は運命的に避けられないのだ。

というか、これはすでに現在のさまざまな工業的マスプロダクション分野の現場で普通に毎日起きている日常である。彼らブルーワーカーは、毎日融通の利かない機械の異常処置に追われ、どうにかこうにか六割だか七割程度の可動率を保って賃金を得ている。そして、毎日産業用機械のお守りに追われている彼らは、どんなに自動化が進もうとも自分の持ち場が早々に奪われることはないだろうことを知っている。つまりはそういうことだ。

これでも納得できないならば、もう少し極端な話をしよう。では仮に、一切のメンテナン스가不要な上、従順で応用性も効くAIを積んだ高度な人間型の機械が技術革新により製造可能になったとする。きつと非常にハイスペックな機械であろう。きつと彼らを使えば、彼ら自身を生産することにすら人間の手は必要なくなるはずだ。……ところで、その機械を作れと言われた生産現場の人間は果たして、もし作ったら確実に自分がクビになるような製品の設計図を引いたり、射出成形器を動かしたり、研磨機にかけたりするのだろうか？

◆十一頁

「耀一郎が安易で軍国主義的な国費の使い途に対し異を唱える場面」

結局のところ、あの世界大戦の最終的な情勢を決定づけたのは、戦力の大小ではなく物資の多寡でもなく、〈科学技術〉であったということ、世界中の政治家と軍人はついぞ終戦まで気づくことはなかった。

人類の歴史的進化スケールの側面から見た場合、第二次世界大戦勃発以降の二十年は電信技術の革命によって情報伝達速度が従前の数千倍だの数万倍だに膨張して以降初めて起こった初の〈テクノロジック戦争〉ともいえ、実際にドイツ軍の用いたエニグマ暗号を解読するための自動復号器の開発や、戦後においては冷戦初期の〈際限なき挑発〉を通じてミサイル軌道計算や宇宙開発などに必要なコンピュータ開発競争など、特に情報分野において苛烈な競争が起こっていたのであるが、ほとんどの状況に直接関わっていたはずの政治家・軍人らは、その情報伝達技術の進化がはらむポテンシャルを理解できず、終戦のきつかけとなったあの〈ジョシュア・ハミルトン事件〉が起きた後でさえ、制空権だの空母だのナバーム爆撃だの、旧時代的で野蛮な戦争のやり方に固執し続けていたのだった。

要するに、楽だったのだ。自分はスコッチを傾け葉巻でもふかしながら予算を少しいじくり、ヘルメットと小銃だけ持たせて前線に送り込んだ哀れな貧乏人の口を多少の軍人年金で塞いでおき、目に余れば多少強引に別の形で口を塞いでおきさえすれば、自分たちの輩行は正義の行動であると堂々と報告書に書き込むことができ、神に許されるのだから。

そんな彼らが本格的に自分の過ち、愚かしさに気づくのは、それより数十年ほど時代を下る必要がある。

情報技術というものは基本的には平等に提供されるものだ。資本主義国家を自由主義国家であると誤謬してプロパガンダを行っている建前上、その国は情報に対してある程度の平等性を認めなければならなかった。情報は冷酷に平等に、金持ちにも庶民にも同じものを提供する。そして一九七〇年、凄惨な戦場と化したベトナムの生々しい映像がその国の庶民のもとに自由と平等の名の下に届けられ、大義を失った結果その国——アメリカ合衆国という人類史上最大規模の軍事力を有する超国家は、（一度目は公に認めてはいないものの）第二次世界大戦に続く二度目の大きな敗北を、今度は摘め手などではなく真正面から喫することになるのである。

◆十七頁

「吉原時代の蘭が性に関する指導を受ける場面」

ゆえあって編者は岡山弁つ娘が大好きである。広島弁ほどキツくはないがぶつきらほう気味に見える言い回し、対して鷹揚さを含むイントネーションが女の子と合わかった時、そこには〈かわい〉が生まれるのである。

劇中に登場した蘭をかつて可愛がっていた加藤ヌイもまた、客客が幸いし運良く東京の高級遊女となれた、岡山は県北出身の二十一歳、未婚の処女である。さて処女と言った。確かに編者は処女と言った。

改めて前提に出すまでもないが、本作に登場している女性には「全員例外なく」処女である。読者諸兄には何か言いたいことがあるのかも知れないが、そんなことは知ったことじゃあない。まずは劇中に戻り加藤ヌイの発言をもう一度よく読み返していただきたい。アンニユイな表情をしたヌイ姐さんが、いまだ経験のない純粋な恋愛に憧れているような言動が見られるだろう。そう、彼女には経験がないのであり、すなわち彼女は処女である。仮に百歩譲って——まずもってありえない話だが——彼女が非処女であったとしても、だが考えてもみてほしい。〈純愛〉というこれ以上ない処女性に憧れている非処女は、ただナアナアと現状に甘んじるだけの処女などよりも、よほど明確に処女ではなからうか。いやそもそも、考えてみれば我々は、本来ならば処女であるはずのものを、不用意に非処女だとみなし過ぎてはいないだろうか。以下に例を挙げて考察してみよう。

たとえば、AV女優は処女である。この国の法律がそうである以上モザイクの向こうで変な物が出たり入ったりしているはずがないので、どう考えても処女である。

処女膜再建手術を受けた風俗嬢は、恐れ入るくらいプロ意識のある処女である。

ちよつと昔、監督や社長さんと撮影後にいろいろあったらしいと噂になったあのジュニア・アイドルも、あくまで試食でノーカーントなので処女である。

催眠アプリを使いワンタッチで眼がハートになってしまい、まともな親のもとに生まれてきたならば知るはずのない無から突然浮かんできた淫語を連呼しちゃう女の子も、催眠モノは自分の意志によるものではなくセーフなので、完全に処女であることが確定している。

あれだけ常連のお兄さんや同性の友達をとかえひつかえしているように思える喫茶店のチノちゃんも、よくよく考えれば好き勝手されてるのは同人誌の中だけなので普通に処女だし、あの痛覚共有だかをする淫紋には実は非処女を打ち消す効果もあるからクロも間違いないく処女、デイズーは処女懐胎の上産卵までしちゃった筋金入りの処女で、アーチェも処女だしナギも処女。……もうなんか、そういうことになっておきませんか。そうした方が我々、生きやすくありませんか。

◆十九頁

「森陽外の著作を手にした耀一郎が蘭の懊悩の原因を察する場面」

そもそもこんな余白の細かい文章を読んでいる諸兄は相当地に暇がある御仁であるはずで、本来ならばその暇を用いて引用元を参照すべきとしたいのだが、お節介ながらインスパイヤ元となった森陽外著〈セクスアリス〉の概要を、簡潔に一文で解説する。

大学で哲学を教えている主人公がふと「そういうえば……自分には性欲がないなあ？」と思いたち、自分がいかかにして性欲を持たないまま性と触れてきたかを迷いしつつ、それでも必要所で「いや、けどモテてはいたいよ？ 感」を絶妙な割合で交えながらひたすら自虐風自慢を繰り返す自伝風フィクション小説である。しかもその主人公、結婚して子どももいるし。村上春樹かよ。

個人的に、一度読んでみることをおすすめする。明治時代に既にこういう、なんというかスゴいのがあったことを知るだけでも、読む価値はあると思う。

Cocoa Holic #28

発行■ココアホリック/ユイザキカズヤ
発行日■初版:2018. 8. 12

絵■ユイザキカズヤ
話■rK

字■やま様
デザイン■柊椋様

スペシャルサンクス■呉・イジス様

<http://c-holic.jp/>
xx_merry@hotmail.com

印刷■サングループ

 **SUN GROUP**
<http://www.sungroup.co.jp/>



THANKS FOR READING ;)

SUPPORT MY
TRANSLATIONS AT:
CROWKARASUTRANSLATIONS.BLOGSPOT.COM
PATREON.COM/CROWKARASU

